

第1学年 総合カリキュラム (総合I) 実践報告

学年担当 鈴木・田口・寺本・秋山・小宮・佐藤・寺井・関根

目 次

はじめに	101
1. 総合I (総合的な学習) のねらい	101
2. 基本方針とねらいの具体案	102
3. 総合的な学習の時間 (総合I) 実施内容	103
4. 総合的な学習 (総合I) の総時間数	105
展開I 総合的な学習実施前のブレインストーミング	106
1. 総合ブレインストーミング1	106
2. 学習ブレインストーミング2	106
展開II 鎌倉校外学習	108
1. 鎌倉校外学習の目的	108
2. 実行委員会の準備	108
3. 鎌倉校外学習終了後アンケート	109
展開III 総合学習ブレインストーミング	114
1. ブレインストーミング3	114
展開IV 無人島ゲーム	115
1. 無人島ゲーム指導案1	115
無人島ゲームワークシート	117
もう一つ持ち込めるもの一覧	117
2. 無人島ゲーム指導案2	118
展開V 映画ヤカオランの春「あるアフガン家族の肖像」	120
峰村里香さん講演会「カンボジアに於ける教育支援活動について」	
1. 「ヤカオランの春」映画鑑賞会のねらい	120
2. 事後アンケート結果〈生徒アンケートより (一部掲載)〉	120
展開VI 総合的な学習(総合I)ブレインストーミング4	123
1. ブレインストーミング4	123
展開VII 一学年総合中間総括	124
展開VIII 中間発表	127
1. 1年 総合的な学習中間発表 学習指導案	127

2. 総合的な学習 中間発表 課題一覧	130
3. 総合的な学習発表会	131
展開IX インタビュー活動	134
1. インタビュー活動のねらい	134
2. 準備内容	134
3. インタビュー先一覧	135
展開X 本年度のまとめと来年度の課題	136

はじめに

本校の総合Ⅰ（学年総合＝総合的な学習）は、自分たちが生きていく社会のニーズと自分たちの興味・関心に応じたテーマをみつけ、人や社会と関わり、創造的に未来を生きていく力を身につける生徒を育成することである。

「共生（多文化共生）」をキーワードに、学年の目標や生徒の実態、生徒の希望を生かしながらテーマを設定しており、生徒の具体的な活動は、生徒実行委員（総合学習係）が中心となり、生徒主体型の「総合的な学習」をすすめている。

1年生の学年づくりにあたり、担任は、基本の「基」を学年目標としてあげた。これは、1年では、まず「仲間と関わり合いや学校生活」の基本を押さえることが大切であると考えたからである。

実際に入学してきた生徒達は、自分のまわりにいる仲間と考えを深めたり、共に高め合うことが不得意な生徒が多い。総合Ⅰの中で、学校外の方々と交流を持つ機会を増やしたり、普段学校の中では聞くことのできない色々なお話を外部の方から聞く中で、知識を智慧にかえることができるのであらうと考える。

また、1年の総合Ⅰは、子ども発達教育研究センター「総合的な学習の時間調査研究会」（「総合的な学習の時間」の充実に係わる教師参考教材の開発等に関する委嘱事業）（酒井先生・宗我部先生・宮本先生・井上先生）にアドバイス（ブレインストーミング）を頂きながら進めた。

1. 総合Ⅰ（総合的な学習）のねらい

(1) ねらい

- ① 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。
- ② 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に、主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。
- ③ 各教科、道徳及び特別活動で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすること。

(2) 基本方針

- ① 共生（多文化共生）をキーワードに、学年の目標や生徒の希望や実態に即し、学年行事の目的・内容等ともリンクしながらテーマ設定を行う。
- ② 目的に向かって、必要な情報を集める活動（追求活動）を積極的に取り入れる。
- ③ 生徒相互で触発しあい、智慧や工夫を尽くした課題解決にチャレンジする姿勢を大切に支援を行う。
- ④ 確かな個に支えられたグループ活動を大切に支援を行う。
- ⑤ 生徒が主体的に、活動計画をたて、修正し、進行するための十分な時間を確保する。

- ⑥ 教科クロスカリキュラムを積極的に取り入れる。
 - ⑦ 大学との連携により、活動を充実発展させることを視野に入れる。
- (3) 育てたい力
- 自分たちが生きていく社会のニーズと自分たちの興味・関心に応じたテーマを見つけ、人や社会との関わり、創造的に未来を生きていく力を育てる。
- ① 課題の設定や解決のプロセスで育つ力
 - ② 学習を生かし、発展させる力
 - ③ 学習を支え、統合する力
 - ④ 学びとしてのスキル（データー収集 表現方法 メディア活用 評価方法等）

2. 基本方針とねらいの具体案

- (1) 子どもと供に活動内容やテーマを決める。
- ① 活動内容やテーマ設定
- 共生（多文化共生）をキーワードに、学年の目標「基本の『基』」・生徒の希望・実態に即し、学年行事の目的・内容等ともリンクしながらテーマ設定を行う。
- ② 子どもの生活と結びついた身近で、現代的な課題を念頭におく
 - ③ 中学1年生で内容や活動に発展性が持てるようにする。
- (2) 子どもの学びを踏まえた単元計画を考え、実施時期を決定する。
- ① 実施時期（後期から開始）
 - ② 長期継続型（1月末までは校外学習準備，2月初旬校外学習実施，後期の火曜総カリは11コマのみ，この中に総合的な学習の時間以外も当然入ってくる）
 - ③ 短期集中型（クロスカリキュラム実施，後期授業の中に少なくとも12時間から18時間使用することも視野に入れて活動計画をたてる。）
- (3) 実施時期と活動内容をもとに授業時数を想定する。
- ① 年間総時数 総合Ⅰ＝45分×44コマ
- 7月2日(日)に1コマ実施
- ② 天候，季節，栽培，収穫など活動に適した時期を想定する。また学校行事との関連も考える。生徒祭準備→総合の一部として考える。
 - ③ 各単元の目標，内容，活動，教材などを具体的に構想する。
- ・個別活動 グループ活動
- ④ 子どもの学びの姿を基に，単元構成，配列，展開を見直し，評価・改良しながら進める。
 - ⑤ 活動方法
- ・学年全体で様々な活動に取り組み，体験を通してお互いに学びあう。
- 例：インタビュー 他中学生・保護者などとの意見交換。

- ・最終的には何らかの形で社会に働きかけ発信する。

例：総合学習文集作成 ホームページ作成。

⑥ 教科の関わり

- ・各教科の手法をいかしながら，教科を越えて，総合的に考察する学習方法を身につける。
- ・追求するテーマに関して，総合的に見る見方や考え方などについて「学年裁量型」や，「教科クロス型」を取り入れる。

⑦ 学年毎の内容

- ・1年では，各自の問題意識から，生きる上で必要である総合的発展的な課題を設定し，グループ学習（例：専門家へのインタビュー）を通して解決の糸口をつかみ，他のグループの友達にその結果や残された課題などについて知らせる。
- ・2年では，1年での学習内容をより深めるために，自分たちが持つ社会の問題点と解決する術を同世代の中学生にぶつけ，その意見を反映させながら，自分の思考をまとめる。
- ・3年では，2年生での活動内容や生徒自身による評価を反映させ，近い将来における自分の生き方を総合的に考え，社会に発信する。

入学から夏休み前までに，P Cオリエンテーション・総合Ⅱ（自主研究）に向けてのスキルアップ等を行ってきた。具体的には以下の通りである。

ポートフォリオ学習 グラフ・表計算ソフト学習 施設利用学習 プレゼンテーション方法の学習などを中心に行った。

さて，これらの学習を基盤に後期においては，テーマを設定し，学年で取り組む総合学習Ⅰ（総合的な学習の時間）に取り組むこととする。もちろん総合Ⅱは後期も総合Ⅰと並列で自主研究（個人研究）を進めていくこととなる。

3. 総合的な学習の時間（総合Ⅰ）実施内容

期 日	内 容	
7月2日(金)	総合Ⅰ（総合的な学習の時間）オリエンテーション	(1 h)
9月 日()	総合Ⅰ（総合的な学習の時間）ガイダンス，組織作り	(1 h)
11月3日(水)	鎌倉下見（実行委員8名＋担任4名）	
11月5日(金)	総合Ⅰ 鎌倉校外学習 第1回学年集会 5限 下見報告会 6限 コース決定「班毎の話し合い」	(2 h)
11月12日(金)	5限 「班行動予定決定のための話し合い」 6限 係会合「係の仕事」	(2 h)

11月16日(火)	5 限 心構え「実行委員長より」 ルール説明 コース諸注意 意気込み 6 限 係会合 班会合「コースなど最終確認」	(2 h)
11月19日(金)	朝 15 分「しおり確認」 合同終礼「しおり読み合わせ」 並び方, チェックポイント説明, 集合時間・場所, ルール, カメラ, その他連絡	(1 h)
11月22日(月)	鎌倉校外学習当日	(8 h)
11月30日(火)	5 限 反省(班・係) 6 限 個人アンケート集計結果と振り返り 実行委員から「理想と現実」 集計結果を踏まえて「個人アンケート」実施	(2 h)
12月6日(月)	放課後 総合的な学習実行委員会開催 教師からの思い→何を学んで欲しいのか。 実行委員の思い(理想の学年集団像と現実とのギャップ) テーマ決定・具体的な計画(内容と日程)	
12月13日(月)	無人島ゲーム実施(体育授業にて)	(1 h)
12月14日(火)	5 限 総合的な学習の時間のこれからの計画など説明 6 限 理想の班・クラス・学年と実像とのギャップ 具体的な解決策を考える。自分たちにできること	(2 h)
12月16日(木)	午後(授業カット) 映画 ヤカオランの春「あるアフガン家族の肖像」 内戦の激戦地, ヤカオラン。大地は血で染まり, 人々は悲しみに沈んだ。アリ・アクバル, タジワール夫妻は, 生きるために故郷を逃れ, 難民となった。そして, 自らの人生を子どもたちに語り始めた。平和を希求する人々へ, あるアフガン家族からのメッセージ。 宿題: 感想文「人間として生きるべき道」(国際 共生 福祉)	(2 h)
12月24日(金)	午後 峰村里香さん講演会「幼い難民を考える会」 講演内容「カンボジアに於ける教育支援活動について」 カンボジアを中心とした途上国の子どもや人々の生活について映像や実際に子どもたちが作った作品などを見ながらお話を聞くことができた。 担当からは, 「仲間作り」「意志ある集団へ」という視点で講話をお願いした。	(2 h)

1月25日(火)	5限 これまでの総合学習よこれから 6限 これまでの活動の自分自身の興味関心をもとに各グループごとのWebbingを実施 〈それぞれのグループの興味関心のあるキーワードからこれからの総合を考える〉
2月1日(火)	5限 学年集会総合的な学習について確認 6限 グループ別会合・小グループ別会合
2月2日(水)	1限 小グループ別会合 活動内容打合せ 役割分担 2限 各小グループ活動調べ学習など
2月9日(水)	6限 小グループ毎の活動 発表方法・内容の確認と役割分担
2月15日(火)	5限 小グループ毎の活動 発表準備仕上げ作業 6限 発表リハーサル(グループ毎)
2月18日(金)	研究発表会当日 グループ中間発表会
3月8日(火)	インタビュー準備 ・訪問先の探索 ・連絡方法, マナー
3月22日(火)	5限 訪問時のマナーなど準備 最終発表方法の確認
3月24日(木)	1限 2限

4. 総合的な学習(総合I)の総時間数

1年44コマ 2年50コマ 3年67コマ (1コマ=45分)

1年(2004年度入学生)			
総合学習オリエンテーション	総カリ	4回×2コマ	= 8コマ
	鎌倉当日		8コマ
これから	総カリ	7回×2コマ	= 14コマ
	ヤカオラン		2コマ
	峰村さん講演会		2コマ
	試験期間中		<u>4～8コマ</u>
	教科クロス		<u>4～8コマ</u>
合計			42コマ～48コマ

展開Ⅰ 総合的な学習実施前のブレインストーミング

1. 総合学習ブレインストーミング1

今回の総合的な学習に関して、大変に幸いなことにお茶大子ども発達教育研究センター酒井教授や「総合的な学習の時間」の充実に係わる教師用参考教材の開発に関する委嘱事業お茶大グループの宮本・井上両本校教諭をまじえブレインストーミングを行うことができた。そこでは、今年の総合的な学習をすすめるにあたり、各担任の思いを聞く中で、もっとも重視しなければならない点や各公立中学校で行われている総合的な学習についての具体例についてお話を伺うことができた。これから行う本学年の総合的な学習について具体的な姿が少し見えてきた。特に、育てたい力に対して、身に付いた力、身に付かなかった力の評価を子ども達にどう返していくかについて各担任が確認することができた。

2. 総合学習ブレインストーミング2

(1) 日 時：平成16年6月28日(月) 放課後

(2) 参加者：担任 鈴木、関根、寺本、田口

：『総合的な学習の時間』の充実に係わる教師用参考教材の開発に関する委嘱事業お茶大グループ担当 本校教諭 宮本乙女、井上雅登

：子ども発達教育研究センター 酒井朗先生

第2回ブレインストーミングを行った。教員側としてどのように総合学習Ⅰを捉え、生徒と接したらよいか。その具体的な指導内容、計画などについて話し合う機会を持つことができた。その内容は以下の通りである。

1. 学年生徒の状況

- ① 学年が幼くなっている。(若い生徒の集団への影響力が大きいとも言える)
- ② 自己中心的な生徒が多い。
 - ・自分の言いたいことを言いたいときに言ってしまう。
 - ・教員の話聞いていないことが多く、説明したばかりの学習内容について、質問する。
- ③ 生活習慣は、まずまずだが、もう少し周囲に気を遣って欲しい。
- ④ リーダー性のある生徒もいる。

2. 担任のおもい

担任としては、集団としてのマナーなどについて学んで欲しいと願っている。学年目標の基本の「基」を身につけ更に全体の見渡せる人であって欲しい。また、モグラたたきの指導に陥らないようにしたい。

3. 総合Ⅰの3年間の目標

1年から3年までを考えた場合、1年は他人との協調、2年3年は、学年の特徴を踏まえて、教員側で捉えた課題を生徒に投げかけ、生徒達がこうしたいという点と教員側のおもいを調整しながら進めたい。

指導する教師としての心構え

教師自身が総合的な学習の時間で扱う内容の「ファン」になることが大切である。

「教師は生徒の動機付けを作ることができる」ということを信じて、生徒との価値ある関係の確立をしなければならない。そのためには、時間、ユーモア、感情や価値、真の自分などを共有することが大切である。

4. アドバイス

総合的な学習時間（総合Ⅰ）の3年間を見通したねらいを明確にして、何を学ぶのか。をより明確にしておくが良い。

- ・生徒のどんな力を育てるのか。
- ・各教科との連携
- ・生徒祭総合 冬の活動 どの様に活動を入れていくか。

例えば、

- 自己中心的な生徒 → 全体をみることができるようにする。
 → 世界を見る目、自分を客観的にみることができるようにする。
 → 周囲を考えることができるようにする。

そのためには、まず自分をよく知ることが必要である。

- 自信を持つ

上記の基盤を作りながら、または作った上で

- 今までと違う経験
 → 出会いが必要である

また、教科で出来ること、総合的な学習で出来ること特活でできること、どうつなげるか。それぞれのすみ分けが必要である（お茶中グランドデザイン）

これから、必要な準備は以下の通りである。

- ・アンケート（小学校の時の総合学習）実施
- ・どんなことをやってきたか（創造活動）
- ・一番印象に残っているもの（一番楽しかったこと）
- ・今までに学習した総合的な学習をどのようにレベルアップするのか。
- ・附小と附中総合の連携を考える。

展開Ⅱ 鎌倉校外学習

1. 鎌倉校外学習の目的

① 日本の歴史とふれあう。

歴史の学習とつなげて学ぶ

〈日本の歴史や伝統文化を学びながら視野を広げる〉

② みんなと今まで以上に仲良くするきっかけを作る

〈班内で仲良くする。〉



2. 実行委員会の準備

鎌倉校外学習をどのようにすすめるかについて、実行委員を具体的な話し合いを以下のようにすすめた。生徒全員が目的を意識し参加するためには、実行委員の指導がその中心となる。

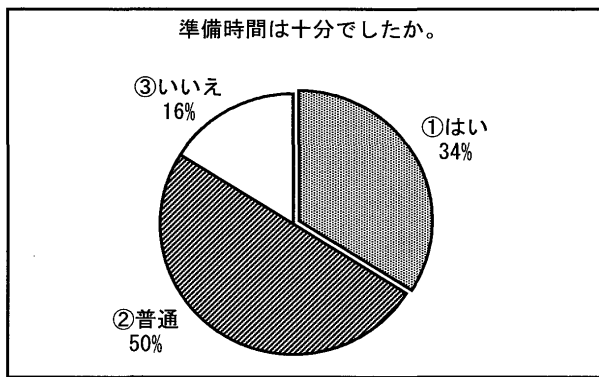
日 時	内 容
10/21(木)	組織作り，教師からのアドバイス（教師の願い）
10/22(金)	鎌倉郊外学習の活動概要，下見日程の調整（実行委員と担任による下見）
10/25(月)	鎌倉校外学習の目標決め
10/27(水)	目標決定，主なルール作りのイメージ
10/28(木)	コース設定のイメージ作り
11/ 1(月)	下見行動予定と仕事分担の確認
11/ 3(水)	下見当日（実行委員生徒8名と担任4人）
11/ 4(木)	下見報告書作成
11/ 8(月)	ルールの検討
11/11(木)	ルール決定，係り会合準備
11/18(木)	前日準備（学年集会の打ち合わせ）
11/19(金)	最終打ち合わせ
11/22(月)	鎌倉校外学習当日
11/25(木)	実行委員会総括と反省

11/29(月)	学年集会準備
12/14(火)	鎌倉校外学習のまとめ（アンケート結果発表）

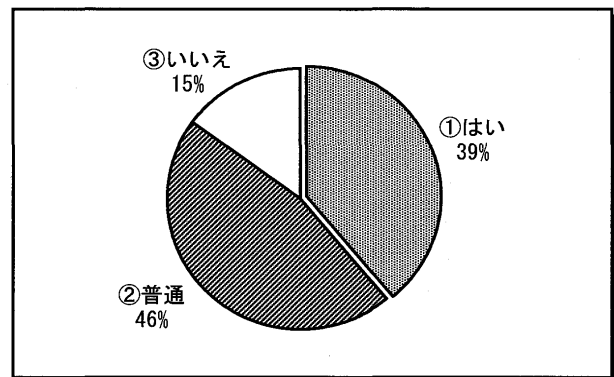
3. 鎌倉校外学習終了後アンケート

I 事前準備について聞きます。

1. 準備時間は十分だったと思いますか。



2. 準備活動の中で班員は協力して活動していましたか。



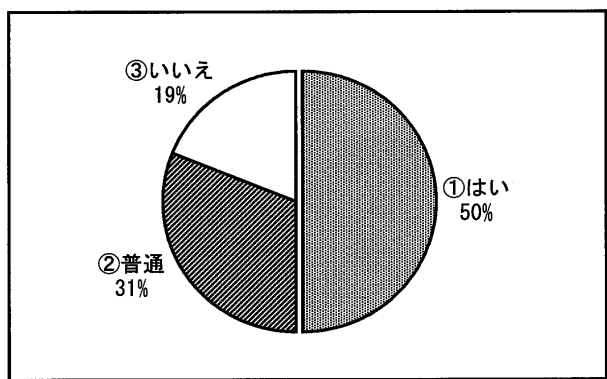
3. 準備についてこんな事ができたら良かったと言うことがあれば書きなさい。

- 行くところの見所をチェックすべきだった。
- 行く前にもっと色々知りたい。
- 居残りしなくてもできる仕事の方が良かった。
- 駅から駅の料金を早めに知りたかった。
- 同じクラスの班の人と行くんじゃなくて他のクラスの人と行きたかった。
- クラス内or学年内での社会科の発表。
- 校外学習が鎌倉だということをもっと早く行って欲しかった。
- しおり作り。
- 時間が足らなかった。
- 時間が欲しかった。
- 地形について学習する。
- ない。後悔をしない人生を送るんだから。
- バス停や駅などがどこにあるのかを調べられれば良かった。
- 早めに拝観料がいくらなのか調べておくこと。
- 道を細かく調べておく。
- みんな準備ができなかったと思います。鎌倉の道とかもっと調べて行ったら良かった。

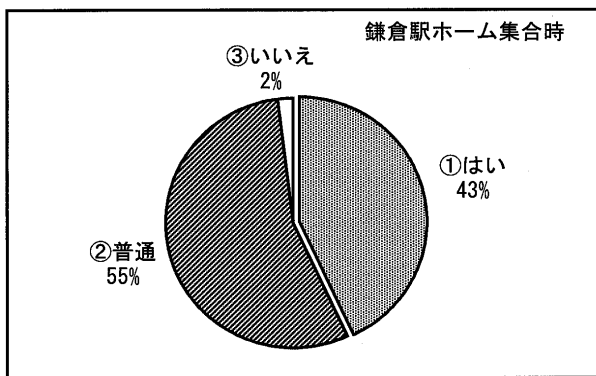
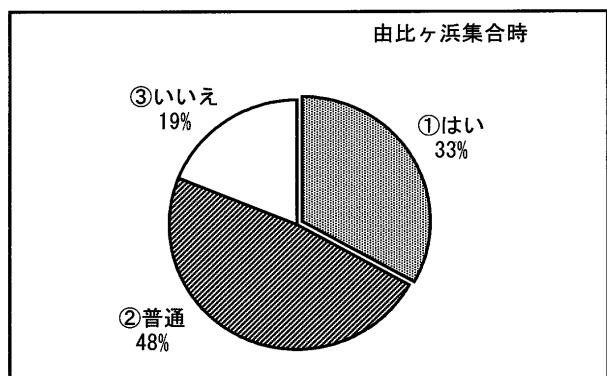
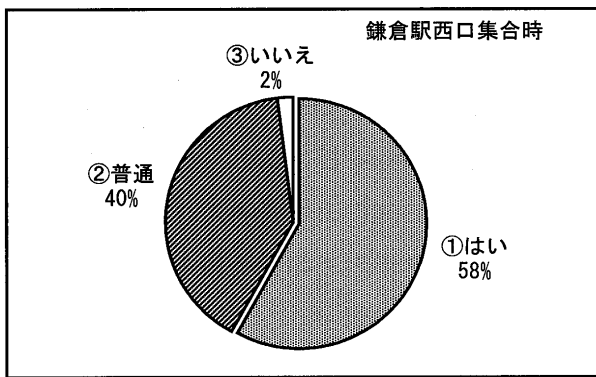
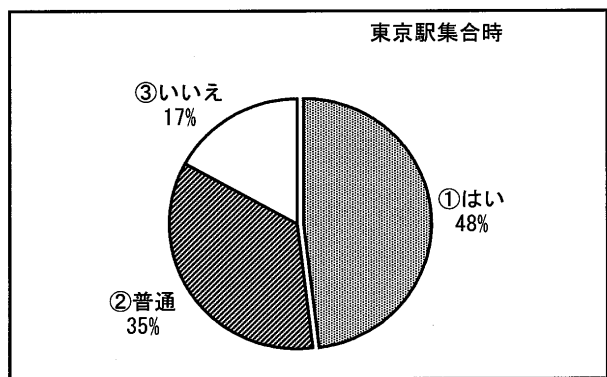
- もう少し時間が欲しかった。
- もうちょっと行動する時間が欲しかった。
- もうちょっと早く準備してもらいたい。
- もっと時間を考えて行くところを決めたかった。
- もっと男子がしっかりと話しに加わってほしかった。
- もっと早くから準備したかった。
- もっと分かり易い地図を準備しておけば良かった。

Ⅱ 当日について聞きます。

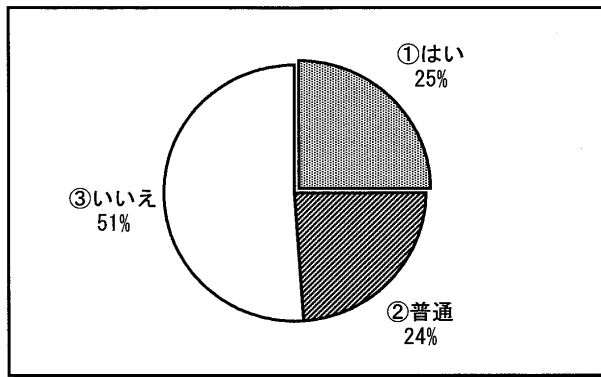
1. 当日朝の東京駅集合場所はわかりやすかったですか。



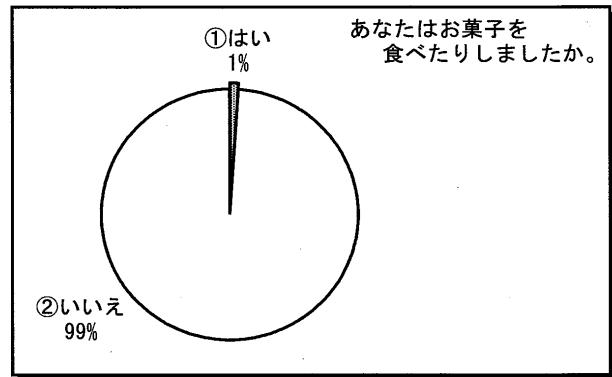
2. 集合時など、みんなで協力して並ぶことができましたか。



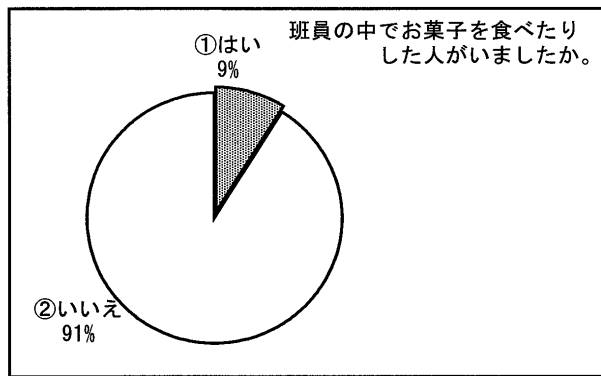
3. 班行動は班員がバラバラになったりしましたか。



4. あなたはお菓子を食べたりしましたか。



5. 班員の中でお菓子を食べたりした人がいましたか。



6. その他のルール違反で、困ったことはありましたか。

- ☐違反はなし。
- ☐お腹がすいた。
- ☐決まった場所で昼ご飯を食べるのがつらかった。
- ☐携帯電話を認めて欲しかった。
- ☐携帯を自分で持ってきてもいいようにする。迷子（班内で）を防げると思う。
- ☐時間が少ない。
- ☐試食して良いか。
- ☐試食しても買わなかったり、お店をさんざん歩き回ったのに買わなかったり、お店の人に迷惑をかけたのではないかな。
- ☐特にありませんが、だれも違反していなかったと思います。
- ☐班の中でバラバラになった。結局迷子になった人もいて困った。
- ☐弁当を歩きながら食べたりした者がいた。一人だけ入らなかった人がいた。自販機でお茶を買っている人がいた。
- ☐他の班でブドウ飴が溶けてきたからと言って食べていた人がいた。
- ☐水も買っちゃいけないこと。

○由比ヶ浜の集合時間に遅れたこと。

7. 班行動中どんなことでも良いので、困ったことなどあったら書いて下さい。

○歩くのが遅い人と早い人がいた。

○急ぐ人とだらだらする人がいて困った。

○一部の女子が歩くのが遅くて班がバラバラに分かれてしまった。でもその人たちに合わせる
と予定ぎりぎりになるので、困った。

○移動するときに男子が走って20分前とかに着いて疲れてしまいました。歩いて欲しかった。

(ルールじゃないと思うけれど)

○お店とかをもっと見たい人がいて待たされて少し困った。

○お土産を買うとき少し集合時に遅れる人がいた。

○お土産を見てびっくりしていた人がいたので遅れた。

○行動しているときに、すぐ寄り道する。

○コースの細かいところをきちんと決めていなかったなので意見が割れたりした。

○最後、大仏から由比ヶ浜まで時間が足りずに走ったこと。

○時間が少ない。(6)

○試食したかった。

○試食して良いか。

○集合場所がわかりにくかった。

○自由参加で歩いていたのに、途中で仲間割れになったこと。

○先生の携帯へなかなかつながらなかった。

○大仏から由比ヶ浜に行くとき、班員とはぐれてしまった。

○体力が持たない。

○地図を犯人全員が持ってきていなかったこと。

○時々道に迷った。(6)

○のどが渇いたり、お腹がすいたりして、そのところの名物を食べれなくて!!!!。

○腹切りやぐらが中止になった。

○班がバラバラになった。(2)

○班の中で2・3人ずつになって歩いていて、スピードが違いすぎたので何分も待っていなければならなかった。

○班の人の筋トレに協力するのが大変でした。

○他の班に行かない。

○水が流れているふちを歩く、危ないことをやっている人がいた。特にけがとかなかったけど、
バカっぽい。

○森に入ってしまった。

○横に広がってしまったこと。

○わがままを言う人がいた。(2)

展開Ⅲ 総合学習ブレインストーミング

1. 総合学習ブレインストーミング3

日 時：平成15年12月1日(水)

参 加 者：子どもセンター 酒井先生 宗我部先生

：担任(田口, 寺本, 鈴木, 関根)

総合的な学習をすすめるときに、中心となる先生がアイデアを作り、他のみんながついていくパターンは良いものとは言えない。教師集団が協働して相互の理解を深め、総合的な学習の目的を共有した上で、指導にあたる必要がある。

今回の総合的な学習の目的は、人間関係力の育成ということになる。そのためには、「子どもたち同士の常識」と「社会との常識」のギャップを埋めることが必修である。そのためには、以下のようなことに気を配る必要があろう。

- ・子どもたちの中で解決することができる話し合いを設ける。
- ・子どもにとって大事なテーマ(切実なこと)を取り上げる。

① クーラー導入

② 同年代の犯罪 少年犯罪

- ・公からはいる → 自分の生活へ還元
- ・自分の心の中にある犯罪への可能性と引き留める自分

③ 不法滞在者

※②印は子ども自身が大きく関わると思われる題材

これらについて、ディベートを通して、焦点化することで明らかになる。お互いの意見を見出すためには、それなりの調べ学習が必要である。色々と調べれば、みんなに言いたくなる。反対の意見が出れば、反論を言いたくなる。

教師の立場は、多面的な視点でその課題をとらえているかどうかのチェックをすることである。

12月24日(金) 峯村さん講演

カンボジア難民支援から発想できるものを挙げると以下のようなだろう。

- ・難民とは、何故難民になる。貧しいのは何故。
- ・日本の難民受け入れについて
- ・カンボジアの現状
 - 世界の中での立場
 - 子どもたちが銃を取る。
- ・日本の対応(無関心さ)
- ・難民から人権に
- ・無人島ゲーム
- ・子どもたちの認識 アフリカ・黒人

しかし、ユーゴスラビアの難民が多くなっている。政治・宗教の難民

14歳の誕生日

展開Ⅳ 無人島ゲーム

1. 無人島ゲーム指導案1

難民の現状を知る～無人島ゲームを通して～

(1) 【目 的】

- ① 食べ物や安全な水、医療、基礎教育は人間が生きていくために絶対必要なものであることを理解する。
- ② 必要不可欠なものと、あればいいものとを区別でき、地球規模で生活環境を考え、自分以外の人々に共感を持つことができる。
- ③ 難民の現実を捉え、人間の最低限の権利とは何かを考えることができる。

(2) 【課題設定】

- ① グループで相談して、島に持ち込むものや権利をもう一つ自由に決めよう。
- ② 21のものや権利のうち、なにを海賊に差し出しますか。

(3) 【展 開】

- ① 6～7人のグループに分かれる。(各班ごと)
- ② 各グループに20枚の記入済みのカード、1枚の未記入のカード、ワークシートを配布する。
- ③ 次の様に説明する。

「ここは、無人島です。さて、事情があってグループのメンバ「で、一生暮らすことになりました。今あなた方には、20枚のカードに書かれているもの、または権利が与えられています。あと、1つのものを持ち込めます。グループの人と相談して、持ち込むものを未記入のカードワークシートに書いてください。またその理由をワークシートに書いてください。」

〈予想される反応〉

ユニークなものとして、「ローソン」や「ドラえもん」などがでてくることが予想される。これらは実際には不可能であるが、それゆえに生産労働と切り離され、消費が主だった私達の生活や、欲しい物はすぐ手に入るような生活を気付かせてくれるので、発展途上国との生活と比較する意味でかっこの事例となる。

- ④ 10分程度経過した後、次の様に説明する。

「1ヶ月たった後、海賊に出会い、カードに書かれている10個のものを差し出すことになりました。21枚のうち何を差し出し、何を残しますか。差し出すものと残すものを区別し、その区別した理由をワークシートに書いてください」

- ⑤ さらに5分程度経過した後、今から5分後にまとめて発表してもらうことを告げる。

⑥ 各グループごとに班員全員が前に出て1分間で簡単に発表する。

⑦ 発表が終わったところで、次の指示を出す。

「今回の試み（シミュレーション）が何を意味していたのか、各グループで考えてみて下さい。キーワードは『貧困と幸せ』です。」

〈教師の支援〉

差し出したもののランキング表を作るとすると、その上位に集中したものが無い状態が貧困であるということを説明する。

⑧ 今回のシミュレーションの感想を個々に用意されたワークシートに記入する。

⑨ カードとワークシートを回収して終了。

(4) 【カード内容】

1. テレビ 2. 携帯ラジオ 3. パスポート 4. パソコン 5. お菓子 6. ヤギ1頭
7. 自転車 8. 自分の信じる宗教 9. 栄養のある食べ物1年分 10. 清潔な水 11. 病気やけがをした場合に治療を受けること 12. 教育を受けること 13. 虐待されたり暴力を受けないこと 14. 自分の部屋 15. テレビゲーム 16. 自由に使えるお金 17. 差別を受けないこと 18. 心地よい住居 19. トイレットペーパー 20. 1年に1回1分間だけ親からビデオレターが届くこと

(4) 【評価方法と視点】

必要不可欠なものには、次のようなものが上げられるだろう。

①食料 ②水 ③生産や狩猟などの道具 ④火、熱 ⑤医療

また、あればよいものには、次のようなものが上げられるだろう。

①遊び、教養・文化 ②通信、交通手段 ③利便性のあるもの

必要不可欠なものから、人類共通のものとして人間の権利を考えることができる。

あればよいものからはインフラストラクチャー〈生活基盤〉を知ることができる。

また、このようなグループ参加型の話し合い活動によって、リーダーの発見につながり、表現力、討論をする能力、吟味する能力、まとめる力、社会的な考察力、共鳴する能力などが養えると考ええる。

【海賊に差し出すもののランキング作り】

シミュレーション実践後、海賊に差し出すもののランキングを作ってみる。このランキングの上位にきているものが、不足または欠如している状態が貧困であることに気付くことがこのシミュレーションの主課題である。

無人島ゲームワークシート (参考例)

無人島ゲーム グループ用ワークシート

1年 組 3 班

班長(司会) _____

生活(記録1) _____

情報(記録2) _____

環境広報(記録3) _____

1. ここは無人島です。君たちのグループのメンバーで一生暮らすことになりました。君たちには、「20」のものや権利が与えられています。
「20」のものや権利に加え、もう一つだけ無人島に持ち込むことができます。さあ何にしますか。グループで相談して決めて下さい。(画用紙のカードにも書く)

①もう一つのもの

- メンバーから出されたもの・調理セット・草原・馬・白馬(ペガサス)
- 時刻表・発電機・無線・金閣寺のプラモデル
- ハリコプター・ぶんちゃん・風呂・コンビニ・夕矢
- 船・原始的な生活をするための道具・横川のがほめし
- 最後に決めたもの

ハリコプター

②その理由(なぜそれを持ち込むのか)

空もとれどこの無人島からにげられるから。

2. 無人島での生活が一月ほどたったある日、海賊がやってきました。「21」のものや権利のうち「10」個、差し出すことになりました。何を差し出し、何を残しておくますか。また、その区別する理由を書きなさい。

差し出すもの

- 山羊一頭
- 自転車
- トイレペーパー
- パスポート
- 自分の信じる宗教
- テレビゲーム
- 自分の部屋
- 敵を倒れること
- 1年に1回だけ親から書くビデオレター

残しておくもの

- 清潔な水
- Medical treatment
- 食べ物や水分
- パソコン
- 居住地の良い住居
- お金
- Violence
- 差別を受けない
- お菓子
- 携帯ラジオ
- テレビ
- ハリコプター

その理由	その理由
<ul style="list-style-type: none"> ○全てもなくても生きていけるから。 ○同じようなものがもう一つあるから。 	<ul style="list-style-type: none"> ○最低限必要なもの ○にげることもできるし、そのまま生活することもできる道具だから。そうすれば無人島生活を enjoy できるよ

3. 各グループから1分間の発表(気付いたことなど記入)

- 1班... デパートがあるから、そこで売っているものはいいから。21番目はデパートを指定。
2班... 21番目は電気を指定。なくても生きていけるものではないもので分けた。
5班... 必要なもの21番目に発電機を指定した。なくても生きていけるものはいらない。
4班... 生活するために最低限のものを21番目に火を指定した。調理等ができるから。
6班... 生きていく上でいいものというもので分けた。21番目は電話回線を指定。

4. 今回のシミュレーション(無人島ゲーム)の意味は何だろう。

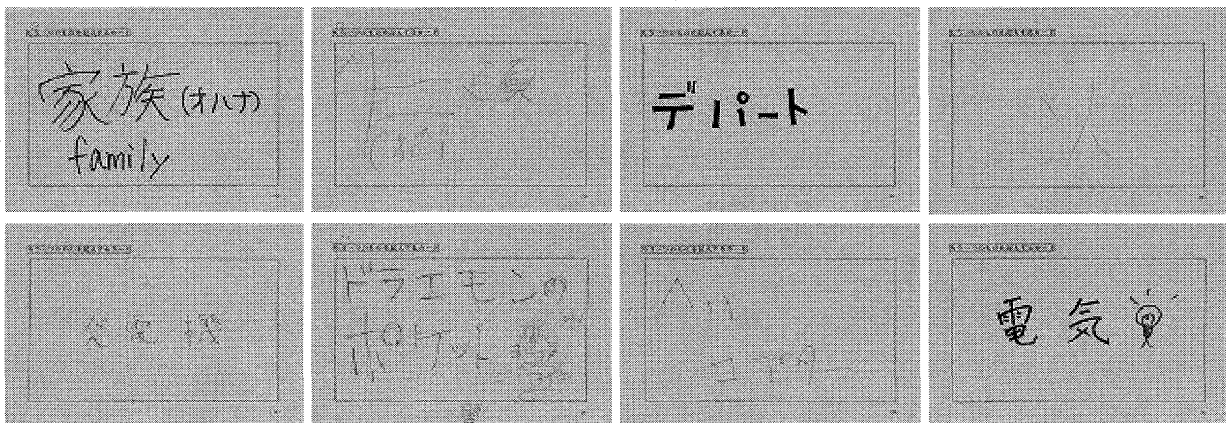
キーワードは「①真②幸せ」です。

グループで相談した記録

- 本当の難民がこれを見た時、何を選ぶだろうか... 引
○デパートがあっても買うお金がないし、電話等を選んでもその使用料金がはらえないと思うので、選ばないと思う。
○本当の難民は生活に必要な最低限のものがあって、それは満足でこういう物をもらうより、家族が全員生きていける幸せ等の方が嬉しいと思う。お金だけで幸せにはおぼつかない。
○親がいない子は、親が欲しい等というかもしれない。

-2-

もう一つ持ち込めるもの一覧



2. 無人島ゲーム指導案2

難民の現状を知る～無人島ゲームを通して～

「無人島ゲーム指導案1」で行ったクラスは、展開で時間が不足してしまい十分に授業内容を理解するに至らず授業を終了してしまいました。

そこで、「指導案1」を急遽変更し、「目的」「展開」の内容を絞った指導案を作成した。

場所は、体育館から武道場に移した。武道場では無人島をイメージさせるため柔道の畳を各班1枚それぞれ置き、班員はその上での作業とした。

(1) 【目 的】

- ① 食べ物や安全な水、医療、基礎教育は人間が生きていくために絶対必要なものであることを理解する。
- ② 必要不可欠なものと、あればいいものとを区別でき、地球規模で生活環境を考え、自分以外の人々に共感を持つことができる。

(2) 【課題設定】

- ① グループで相談して、島に持ち込むものや権利をもう一つ自由に決めよう。
- ② 21のものや権利のうち、なにを海賊に差し出しますか。

(3) 【展 開】

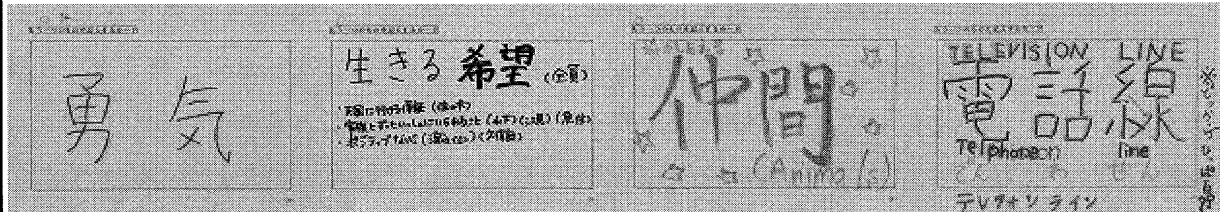
- ① 6～7人のグループに分かれる。(各班ごと畳1枚)
- ② 各グループに20枚の記入済みのカード、1枚の未記入のカード、ワークシートを配布する。
- ③ 次の様に説明する。(指導案1の④と③を入れ替える。)
ここは、無人島です。さて、事情があってグループのメンバで、一生暮らすことになりました。今あなた方には、20枚のカードに書かれているもの、または権利が与えられています。「1ヶ月たった後、海賊に出会い、カードに書かれている10個のものを差し出すことになりました。20枚のうち何を差し出し、何を残しますか。差し出すものと残すものを区別し、その区別した理由をワークシートに書いてください」
- ④ さらに5分程度経過した後、今から5分後にまとめて発表してもらうことを告げる。
- ⑤ 各グループごとに班員全員が前に出て1分間で簡単に発表する。
- ⑥ 発表が終わったところで、次の指示を出す。
- ⑦ 次の様に説明する。(指導案1の(3)と(4)を入れ替える。)

「あと、1つのものを持ち込めます。グループの人と相談して、持ち込むものを未記入のカードワークシートに書いてください。またその理由をワークシートに書いてください。」

〈予想される反応〉

ユニークなものとして、「ローソン」や「ドラえもん」などがでてくることが予想される。これらは実際には不可能であるが、それゆえに生産労働と切り離され、消費が主となった私たちの生活や、欲しい物はすぐ手に入るような生活を気付かせてくれるので、発展途上国との生活と比較する意味でかっこの事例となる。

実際に出されたカード



〈教師の支援〉

⑧カードを回収して終了。

【カード内容】

1. テレビ 2. 携帯ラジオ 3. パスポート 4. パソコン 5. お菓子 6. ヤギ1頭
7. 自転車 8. 自分の信じる宗教 9. 栄養のある食べ物1年分 10. 清潔な水 11. 病気やけがをした場合に治療を受けること 12. 教育を受けること 13. 虐待されたり暴力を受けないこと 14. 自分の部屋 15. テレビゲーム 16. 自由に使えるお金 17. 差別をうけないこと 18. 心地よい住居 19. トイレットペーパー 20. 1年に1回1分間だけ親からビデオレターが届くこと

(4) 【評価方法と視点】

必要不可欠なものには、次のようなものが上げられるだろう。

①食料 ②水 ③生産や狩猟などの道具 ④火、熱 ⑤医療

また、あればよいものには、次のようなものが上げられるだろう。

①遊び、教養・文化 ②通信、交通手段 ③利便性のあるもの

展開Ⅴ 映画ヤカオランの春「あるアフガン家族の肖像」

1. 「ヤカオランの春」映画鑑賞会のねらい。

12月は、鎌倉校外学習を振り返るとともに、次の総合的な学習へ向けての準備がスタートした。

担任団としては「共生」を考える上で、早いうちに色々な立場の人が社会には多く存在することに目を向けさせることが大事であると考えていた。「今まで以上に仲良くする」ためには、友人・隣人・他国の世界の人々・文化の違う人々をよく知らなければならないと考えた。生徒の生活においては、色々な考え方や価値観を持っている生徒がいることを知り、相手の考えを尊重したり、受容したりする気持ちが芽生えるのではないかと考えた。それが「共生」につながるのではないかと考えた。また、学校外の公の事に関わらせることで、学習が学校内で完結されるという気安さや甘えを排し、生徒個々人の責任感や他者への思いを一層涵養したいというねらいもあった。そのような担任団の願いを満たすものとして「鎌倉校外学習」の次に「難民」の学習を設定したのである。

2. 事後アンケート結果 〈生徒アンケートより（一部掲載）〉

(1) 難民についてどう思いましたか。

○とにかくかわいそうだと思います。難民という呼び方からしてももちろん良い暮らしはしていないと思ったけれど、ただ苦しい生活と言うだけでなく、目の前で自分の家族が殺されたり、自分自身も命の危険にさらされたりしているからです。それにやり方があまりに無差別で残酷で、生まれながらの難民のような人がいることにも驚きました。

○難民の暮らしは大変だなと思いました。

○何も罪がないのに可哀想。世の中、平等ではないと感じた。人間は皆同じなのにどうして戦争が起こるのだろうと思った。難民の人々には、早くふつうの暮らしができる用になってほしい。

○難民の暮らしは大変だなと思った

○とても大変な立場に立っている人が多くて、とても悲しかった。日本は何でこんなに平和なのにみんな不満そうな生活をするのかとても疑問を持ちました。無差別に人を殺すなんてなんて残酷です。そんなのはやめるべきです。

(2) 興味深い内容でしたか。どんなことが興味深かったですか。

○人がらくだ一頭と同じ値段だったり、女の人が売り買いされたり、ましてやそれがいけないことだと言うことさえ知らないなど、私たちとは違いすぎるので、その生活が興味深いと思いました。

○全部

○私は学校に普通に通っているのに、学校に通えないつらさがわからないが、学校に通って勉強ができるのはとても幸福なことなのだろう。まだ子どもなのに仕事をしているなんて可哀想。

○アフガニスタンの人がどんなに苦しんでいるのか、無差別に殺されてしまう、子どもも学校に行くことができず14時間も働かされるなんて、とてもひどいこと。ですが走もしないと生活することができないと言う厳しい現状を語っているところが興味深かった。

(3) 自分と難民をくらべてどこが違ったかまたそれをどう感じたか。

○何より、自分と一番違うのは、「生活」だと思います。今の私の生活では、目の前で自分の家族が殺されたり、自分自身も命の危険にさらされたりしていることや、殺されないように逃げ回ると言うことはどうも考えられません。また、それ故のことなのでしょうが、私たちからいえば当たり前でむしろ不満だらけの生活（とても安物の家にでも家族みんなで暮らす）をととても幸せに感じたり、私たち以上の愛国心を持っていたりするところも大きく違うと思いました。

○色々と違う。

○私は、欲しいものがいつでも買えたり、食べ物をおなかいっぱい食べられる。難民は住む家もちゃんとしたものじゃないし、食べ物だって、一日中働いていてやっと生きていけるぐらいの食べ物をもらえるだけ。欲しいとかなんて言っている場合じゃないと思う。女子は、学校だって通えないし外だって普通に通えないとてもつらいことだ。私は今の生活がよいので、急にそのような生活になったらたえられないだろう。

○生活の苦しさ、家の頑丈さ、すべてが違うと思いました。自分がゴミ箱に軽い気持ちで捨てる使わなくなった文具、また、オモチャなども難民にとっては高くても買えないようなものがあるかもしれません。ものを大切にする心が磨かれたような気がします。

(4) この映画はこれからの総合的な学習に役立つと思いますか。

○この映画からは色々なことが読みとれると思うので、総合の活動には役立つと思います。

○色々なところで役立つと思った。

○難民みたいな生活の大変な人たちがいることがわかり、そのような人の気持ちを少しでもわかり心豊かな人に育つ。人の気持ちがわかるようになってものを大切に、友達や親を大切にできるようになる。

○役立つと思います。難民の子のために学校で募金すると良いと思いました。

○総合学習に限らず、一人一人が学校へ行けることを幸せに思い、一生懸命学習できるといいと思った。

○思わない。

○よくわからない。

展開Ⅳ 総合的な学習（総合Ⅰ）ブレインストーミング4

1. ブレインストーミング4

日 時：12月28日

参 加 者：子ども発達教育研究センター 酒井朗先生

担任 田口，寺本，鈴木，関根

1. 2月初旬の活動について

(1) 自分たちの中だけでなく、身近なもので少し距離のあるもの、自分たち関心のあるものを題材とすることがよい。

(2) 日本の中でつらい立場にある人はどんな人だろう。

- ① いじめに合った人に話を聞く
- ② 就職したくてもできない人たち
- ③ 男女差別（女性で差別されていたひと）

(2) どんなところを訪問するのか。訪問する視点は何か。

① 老人ホーム

- ・老人ホームにおける問題を探る。
- ・子どもたちがホームの老人の話をきいてくる。
- ・老人ホームには入れない人はどうするのか。一人暮らしの老人都市部で多い。

② い じ め

- ・自分たちの生活と距離が近すぎる。ある程度の距離を置けるかどうかが問題、自分たちの中にもいじめがあり、2次被害になっては困る。
- ・自分といったん切る必要がある。
- ・大学生で中学の時にいじめにあった人に話を聞いてみる。
- ・当人または、そういう人を支援している人に話を聞く。

(3) 無人島ゲームから峰村さんの講演について

真剣さが足りない。単なる授業として聞いている。こんな活動をやったと言うだけ。峯村さんの時もずーとざわざわしている。附属の生徒はマナーが悪い。真剣に聞くことができない。総合学習を行うことで、真剣に聞けることができるようになればよい。それだけでも大きな成果である。

躰の部分に対しては、先生が強く出ても良いのではないか。学習内容に興味を持たせる、動機付けを大切にすることも必要である。研究以前の問題で公立でできることは附属でもできるはず。自主自立と相反しない。

展開Ⅶ 一学年総合中間総括

平成17年 2月18日

1年総合学習中間総括

総合学習担当

寺本 誠

本年度の1年生の総合学習を「共生」というテーマの下に始めるに当たって、教師が主導しなからテーマに沿って進めていくのではなく、生徒自身が課題を見つけ、自ら立てた目標に向かって総合学習を創り上げてほしい」という願いを担任団は共有してきた。そして、その願いの実現のための手立てについて時間をかけて話し合ってきた。その結果、生徒の代表者が総合学習の立案・運営を行い、教師は彼らの支援をしながら進めていく方法をとることとした。

まず、各クラスの評議員を総合学習実行委員に任命し、彼らの学年に対する客観的な評価を聞いた。その上で彼らの考える理想の学年と現状を比較させ、「この学年に何が欠けているか、どうすればもっと良い学年になるのか」という問いを投げかけ、彼らに考えさせるところから総合学習はスタートした。その結果、彼らが普段のクラスや学年の様子を見ながら問題に感じている、「クラスで孤立している子がいること」や「人間関係がグループ内に固定されがちであること」等の課題から「みんなと今まで以上に仲良くする」ことを目標に掲げた。図らずも、我々が考えていた「共生」につなかる学年目標を生徒側も掲げることを強く望んだのである。この学年目標の下、我々は総合学習に臨むこととなった。

その最初の実践の場が11月に行われた「鎌倉校外学習」である。例年のものを踏襲するのではなく担任と事前に鎌倉に赴いて下調べを行いその成果を学年全体に発表する、自分たちでルールを決める、班ごとに行動計画を作成し検討する、誰もが責任を分担できるよう班内で係を割り振って係りごとに指示を出す、学年集会では常に目標実現へ向けての徹底理解を図る等、実行委員生徒主導で鎌倉校外学習は実行された。この実践での成果は、何よりも実行委員達がリーダーとしての充実感・責任感を得た事である。連日の打ち合わせは必ずしも順調に進んだわけではなく、集まってもほとんど話し合いがなされず終わってしまったこともあった。ただその試行錯誤の中で、着実に自分たちが引っ張っていくという自覚が生まれたと感じる。

12月はこの鎌倉校外学習を振り返るとともに、次の学習へ向けての準備がスタートすることになったのだが、担任団の願いと実行委員の思いに不一致が生じる事態が起きてしまう担任団としては「共生」を考える上で、早いうちに色々な立場の人が社会には多く存在することに目を向けさせることが大事であると考えていた。そして彼らのことをよく知ることで、比較的均質なクラスや学年においても色々な考え方や価値観を持っている生徒が

いることを知り、相手の考えを尊重したり、受容したりする気持ちが芽生えるのではないが、それが「共生」につながるのではないかという目論見があった。また、学校外の公の事に関わらせることで、学習が学校内で完結されるという気安さや甘えを排し、生徒個人の責任感や他者への思いを一層涵養したいというねらいもあった。そのような担任団の願いを満たすものとして「鎌倉校外学習」の次に「難民」の学習を設定したのである。難民学習の始まりは多分に偶然的な要素が重なった。「ヤカオランの春」というアフガニスタン難民の現状に迫ったドキュメンタリー映画、NGO団体「幼い難民を考える会」の代表者による講演と、難民問題を考える機会が12月に続くことを踏まえ、「難民」を切り口に、様々な立場の人が多く存在することを生徒たちに意識させようというねらいがあった。だがそれに対し、反発が起きる。「鎌倉」から「難民」への飛躍が、「みんなと今まで以上に仲良くする」という彼らが掲げた目標とどのように結びつくのか、最後まで実行委員間で意見の一致が見られなかったのである。もっと身近なこと、例えばクラスや学年での「仲間づくり」を強める活動を考えた方がいいのではないか、「鎌倉」の次にいきなり「難民」について学習することを皆が納得できないのではないか、という疑念をどうしてもぬぐうことができなかったのである。

これを受け、担任団では難民の学習が他者を理解する手立ての一つであること、「仲間づくり」につながることを理解させるために、難民学習の準備段階として「無人島ゲーム」を行うことを提案し、実践した。だが、一連の活動は生徒に十分浸透させるものではなかったというのが正直な感想である。実行委員が当初に指摘した懸念がそのまま当たってしまったと言わざるをえない。

最大の課題は「無人島ゲーム」のねらいを、どのように難民学習へとつなげるかが明確にできなかったことである。その課題を持ち越したまま映画と講演会を迎えたために、難民学習に対する実行委員及び他生徒のモチベーションの低さは否めず、さらに映画と講演の内容の難解さも相まって、「鎌倉」で見られたような充足感は得られなかったと感じる。また、担任団の中にも多分に普段の学校生活と離れた「場」の教育力に期待するという安易な発想があったことについては反省を否めない。この結果を踏まえて、我々は年が明けた1月以降の総合学習をどうするか、つまり難民の学習を続けるか、それとも全く違うテーマに変えるかという岐路に立たされることとなった。確かに難民学習を振り返った感想の中には我々のねらいが着実に結びついていくものも多く見られたが、我々が設定した「場」の内容・ねらいを十分理解できなかった者が多かったのも事実である。この生徒間の意識の違いをどのように次の学習に向けるかが課題となった。

実行委員及び担任団で検討する中で、その課題を満たす方法として「仲間づくり」を視野に入れながら、それぞれの関心に応じてテーマを設定し、それに基づいたグループを作って活動することを提案した。つまり、難民についてより深く追求する者もあれば、障害

者などより身近な問題にしぼって学習する者がいてもよい。そのような学習の選択権を生徒に委ねようというものである。そして、それぞれのグループの活動に実行委員が指導・助言を与えることで、追求するテーマや方法はそれぞれ違えども、最終的には全員が本来の総合学習の目標に近づくよう進めることを意図した。今回は中間発表という形を取ったが、まだどの班も始めたばかりで、まず相手を知ろうという段階である。今回の発表会で出された意見や批評を下に、これから試行錯誤しながら方向性が形作られ、実際に対象に向けて動き出すことになるだろう。その過程の中で、「相手の立場を知る」から「共生」へ向けての能動的な実行が促されれば目標に一步近づくことになる。その意味では今回の発表会は自分たちがやってみたいこと、できることを振り返って考える良い機会となったと考える。

本校の生徒の様子を見ていて、人間関係をうまく築けないが故の問題の多さを強く感じる。また生徒もそれを感じているからこそ、その問題の解決を総合学習に委ねようとしていることが目標として明確にされていると言える。現在活動している班のメンバーはクラスを超えて、自分が選んだテーマに基づき、かつ実行委員が友人同士で固まらないよう苦慮しながら決定したものである。自分が追求したいテーマと他のメンバーが追及したいものとは異なるケースや、今までほとんど関わりのない仲間と共に班を構成するケースも起こりうる。自分以外の他者と衝突・妥協・協働しながら学習を進めることで、はじめて対象が切実なものとして自分自身に迫り、より深い学びを得ることができるのではないか。そのような学びの中であるがままの相手を理解するという「豊かな他者感覚」が育まれるのではないだろうか。

2年次に向けての課題としては、自分たちが学んだことを振り返って「個」の成長を確認したり、協働する中で「個」が鍛えられたりする機会や手立てがまだ十分保証されていないという点が挙げられる。学年目標の「みんなと仲良くする」が「豊かな他者感覚」に支えられた「共生」へとつながるよう、今後の総合学習に臨みたい。

展開Ⅷ 中間発表

1. 1年 総合的な学習中間発表 学習指導案

授業者：鈴木 関根 田口 寺本

授業教室：1年 蘭・菊・梅・武道場

1. 研究の内容との関わり

本校の総合Ⅰ（学年総合）は、自分たちが生きていく社会のニーズと自分たちの興味・関心に応じたテーマをみつけ、人や社会と関わり、創造的に未来を生きていく力を身につける生徒を育成することである。

本校におけるこれまでの取り組みから*¹、今年度は、「協働」を切り口に教育活動を見直した。総合的な学習における「協働」とは、目的に向かって、必要な情報を集め、教科やさまざまな場での学びを生かし、確かな個に支えられたグループ活動を通して触発しあい、智恵や工夫を尽くして課題解決に向かってチャレンジする中で、生徒同士または学校外の他者と協力し、他者にも情報を与え、自分も他者からの色々な情報などを受け止め活動することである。そのような生徒児童の育成は、本大学附属校園の幼・小・中12年間を通じた連携の中で達成すべきである。小学校における「創造活動」の目標に仲間と「協働」して活動する中で、学び合う力を養うことを目標の一つにしており、これまで以上に連携した研究が行える素地ができた。

本校の総合的な学習は、「共生（多文化共生）」をキーワードに、学年の目標や生徒の実態、生徒の希望を生かしながらテーマを設定している。生徒の具体的な活動は、生徒実行委員（総合学習係）が中心となり、生徒主体型の「総合的な学習」をすすめている。その具体的な活動の中に、「協働」をキーワードとすることで、総合的な学習の目的に近づくと考えている。

1年生の学年づくりにあたり、担任では、「基」を学年目標としてあげた。これは、1年生ではまず「仲間と関わり合いや学校生活」の基本を押さえることが大切であると考えたからである。実際に入学してきた生徒をみると、自分のまわりにいる仲間と考えを深めたり、共に高め合うことが不得意な生徒が多い。学校外の方々と交流を持つ機会を増やしたり、普段聞くことのできない色々なお話を聞くことができたりする中で、生徒たちは前述した「協働」を通して、知識を智恵にかえることができるのであろう。

*¹本校研究紀要2001年度

2. 本時のテーマ

「仲間づくり ～実行委員を中心としたグループ活動～」

3. 指導計画

- (1) 7月5日(火) オリエンテーション(1h)
- (2) 10月21日(木) 第1回総合的な学習実行委員会開催
・教師からの思い→何を学んで欲しいのか。具体的な計画
(内容と日程)
- (3) 30日(金) 総合オリエンテーション(実行委員発表)
- (4) 11月3日(水) 鎌倉校外学習下見(生徒実行委員8名担任4名)
- (5) 5日(金) 鎌倉校外学習下見報告会
- (6) 12日(金) 鎌倉校外学習 コース決め 班会合 係会合
- (7) 16日(火) 鎌倉校外学習 コース決め 班会合 係会合
- (8) 22日(月) 鎌倉校外学習
- (9) 30日(火) 校外学習反省
- (10) 12月14日(火) 無人島ゲーム、これまでの活動とこれからの予定
- (11) 16日(木) 「ヤカオランの春」～あるアフガニスタン家族の肖像～
- (12) 24日(金) カンボジア支援活動家 峰村氏講演会(幼い難民を考える会)
- (13) 1月25日(火) これまでの活動の反省と、これからの活動にそなえて、グループ別 webbing
- (14) 28日(金) 各自の課題アンケート実施(グループ別活動のグループ作成資料)
- (15) 2月1日(火) 学年集会「総合的な学習について確認」小グループ別会合
- (16) 2日(水) 小グループ別会合・調べ活動「課題解決に向けて」
- (17) 9日(水) 活動内容打合せ 役割分担 小グループ活動(調べ学習など)
- (18) 15日(火) 小グループ活動 発表準備
- (19) 18日(金) 本日

4. 本時の学習

- (1) 本時のねらい
 - ① 社会のニーズと自分たちの興味・関心に応じた課題をより深める。
 - ② グループ活動を通して触発しあい、智恵や工夫を尽くして課題解決に向かう。
 - ③ 他者と協力するだけでなく、他者にも情報などを与え、他者からの情報などを受け止める。
- (2) 学習の展開(1学年:男子48名,女子87名,計135名)

	主な学習内容と活動	教師の支援（または指導）
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実行委員より本時の説明をする 今までの活動と本時の内容の流れを確認し、本日の発表活動の目的と留意点を理解する 	<p>実行委員が説明しやすい環境をつくる</p>
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実行委員よりワークシートを配布する ・ 各グループ毎に中間発表をする <u>発表は、他のグループの活動へも働きかけるよう意欲的に取り組む</u> 各発表については、<u>自分のグループの活動との共通点や相違点などに関心を持って聞こうとする（質疑応答）</u> 発表を聞いて<u>自分たちの次の活動に主体的に取り組む姿勢を持つ</u> 	<p>各グループの発表しやすい視聴覚機器・環境を整える</p> <p>「発表する時は聞き手を意識して相手に伝えることを大切にさせる」</p> <p>「発表者の話を自分に引き寄せ聞くようにさせる」</p> <p>「知識を自分の頭で再構成するように促す」</p>
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各グループの発表について、各自の持っている意見を交える 本時の整理と次時の見通しを持つ 	<p>「グループでの話し合いがスムーズにいくよう促す」</p>
<p>5. 評 価</p> <p>(1) グループ活動を通して触発しあい、智恵や工夫を尽くして課題解決を目指したか。</p> <p>(2) 他者と協力するだけでなく、他者にも作用を与え、自分の他者からの作用を受け止め活動をしたか。</p>		

2. 総合的な学習 中間発表 課題一覧

	ジャンル	班長名	課 題 名	発表場所	2/18発表	次回発表	実行委員
1	国際	T	北朝鮮	K	◎		Y・I
2	国際	T	発展途上国	K	◎		Y・I
3	国際	T	北朝鮮について	K	◎		Y・I
4	国際	M	外国との関わりを円滑に	K	◎		Y・I
5	国際	S	支援について	K	◎		Y・I
1	環境	N	スマトラ沖地震や津波・噴火の起こり	R	◎		K
2	環境	S	地球温暖化	R		◎	K
3	健康	S	麻薬について	R	◎		K
4	健康	I	薬(ドラッグ) & たばこ	R		◎	K
5	人権	Y	差別について	R	◎		N
6	人権	Y	差別	R		◎	N
7	人権	I	人種差別	R		◎	N
8	人権	U	人種差別	R	◎		N
1	福祉	M	ストリートチルドレン	U	◎		O・K
2	福祉	T	障害者の暮らし	U		◎	O・K
3	福祉	K	障害者に必要なもの	U	◎		O・K
4	福祉	T	障害者のスポーツ	U		◎	O・K
5	福祉	O	不自由な人々の生活とその看護	U	◎		O・K
6	福祉	W	障害者の補助法	U	◎		O・K
7	福祉	N	障害者を助ける手段	U		◎	O・K
8	福祉	K	障害者との共生	U		◎	O・K
1	教育	I	教育テレビ(学園ドラマ)が及ぼす影響	武道場	◎		T
2	教育	S	教育のあり方(教師と生徒)	武道場		◎	T
3	文化	O	国際紛争とテロ	武道場	◎		I・N
4	文化	W	食事を通して世界を知ろう	武道場	◎		I・N
5	文化	Y	中国・日本・アメリカの生活・文化の	武道場	◎		I・N
6	文化	Y	三大宗教を知る	武道場		◎	I・N
7	文化	K	世界の遺産	武道場		◎	I・N
8	文化	H	食文化	武道場	◎		I・N

3. 総合的な学習発表会

中間発表会では、各生徒が発表者（グループ）の評価をした。発表方法等についての評価は、コンテストという形で行ったため、それぞれにより緊張感があった。発表する方法については、パワーポイントや自分たちで劇をしたり、実演など工夫が見られた。

コンテスト結果

順位	テーマ	メンバー（○班長）	
優勝	アイメイト	H・E・K・M	65
	世界との関係を円滑にするには 国際支援について 食事を通して世界を知ろう テロと紛争	M・I・Y S・S W・A・S・F I・O・E	55

（4月15日提出された総数120名）

それぞれ、選んだ理由について、下記にまとめた。

アイ・メイトを選んだ理由

- 実演することによりみんなの注目を集めていたと思う。
- 段ボールなどを使い、相手にとっても分かりやすい発表をしていた。
- 実際にどうやっているか分かったのでとても分かりやすく、インタビューがとても意味があった。
- わかりやすき表現をしていたから、とてもよかった。発表内容がよくまとめてあった。
- 再現をしていたから。
- 自分の身近なことを題材にして調べていたので分かりやすく、尚かつ身近なのですぐに生活に生かせると思うのでよかった。
- 分かりやすい
- アイマスクをして盲導犬と歩いたりしてよかった。
- 今自分たちができること、今何をしたらよいかがよく分かりました。

世界との関係を円滑にするには

- 詳しく分かりやすく、自分なりの考えを述べていた。
- OP、Pが一番見やすかったので、分かりやすかった。
- 今話題になっていることの原因やこれからのことなどについて詳しく分かりやすくまと

められていました。

○これからはもっと社会を知るべきだと思い、こういうテーマは望ましいと思いました。

半日デモなどについても知りたかったです。

○発表がとても分かりやすく、しっかりしていた。積極的にこのテーマを調べているなあと思いました。

国際支援について

○僕自身知っているつもりだったことが意外と知らなかったことが多く、10円でも大変な病気でも少しよくなることを知ってこれからも寄付していきたいと思った。

○よく分かった。あと自分で募金していて偉いと思いました。またコンピュータでよく分かりました。

○私がこの中で一番興味があったから。そして、内容も充実していて分かりやすかった。一日3万人の乳幼児が亡くなったいるということを目の前にして私たちは今何ができるか考えさせられました。

○世界には苦しんでいる人がたくさんいる。身近なことを例に挙げて訴えていて説得力があった。

食事を通して世界を知ろう

○各国の食事のマナーをはじめ、インタビュー先に写真を貼ったりしていたのがとても印象深かったからです。説明もよくまとまっていました。

○いろいろな国のことを調べていた。簡素だが分かりやすい。詳しい。

○国々の食事のマナーが分かってよかった。こんなにマナーが違うことも驚きました。

○料理の仕方などにも世界で違いがあることを詳しく知ったから。

○分かりやすく丁寧だったし内容も濃かった。

○一番興味がわいたから。実例があり、とても分かりやすかった。

テロと紛争

- いろいろな歴史がよく分かった。
- 内容にひかれテロのことはよく分かった。
- 発表の仕方がよかった。一番内容が濃かった。
- 世界には、テロと紛争がたくさんあることが分かり、テロの残酷さと無意味さをよく伝えていた。

展開IX インタビュー活動

1. インタビュー活動のねらい

インタビュー活動は、当然学外の方々の協力を得て行った。春休みを中心に、自分たちの疑問を解く鍵をインタビューに託して行うものである。自分たちの疑問を解く場所はどこか。自分で探し連絡を取った。電話のかけ方からお願いするところまでの内容は国語科の授業で行った。

2. 準備内容

総合的な学習で行うインタビュー活動では、まず電話でAppointmentをとることから始まる。生徒には、以下のような内容を確認した。

私はこう考える。 こうあって欲しい。 こうあるべきだ。 という事から始まっているこの学習は、「友だちと仲良くする」という共通テーマに向かって進んでいきます。ですから、各自の課題を解決していく根底には、この共通テーマが流れていなければなりません。各自の課題を切り口にして、社会への疑問にせまっていくことは、簡単なことではありません。各自が将来を見据えていなければ、その場限りの質問で終わってしまいます。もしかしたら、この学習を通してあなたの一生の課題となるものもあるかもしれません。あなた自身の取り組み方で、その方向性は千変万化してしまうのです。

☆インタビューに行く意味

自分の意見を持つということ。たゞ質問をするだけでは、インタビュー行ってももったいないですね。ぜひ、自分の意見を言った後に質問内容を述べるようにしたいものです。

☆インタビューでの心得

インタビューを有効にするためには、各自の課題を調べたり、失礼のないマナーを身につけたり、人と人・心と心をつなぐためにはどうしたらよいか？という課題もその活動を通して学習していこう。

詳 細

☆質問を決める。この時に注意することは、自分たちでちょっと調べれば分かる内容をインタビュー当日に、質問しても失礼に当たるので、それは事前に調べておくこと。

あまりすすめない質問を具体的にいうと、以下の通りです。

環境 文京区のゴミはどんな分別の仕方をしているのですか？ → ×

福祉 現在老人は何人くらいいるのですか? → ×
 健康 環境ホルモンとは、何ですか? → ×
 人権 基本的人権とは何ですか? → ×

良いと思われる質問は以下の通り。

まず自分の考えを述べてから、担当者の方へ質問する。

私は、・・・・・・の様に考えていますが、・・・・・・についてどうお考えになりますか? というパターンで質問して下さい。

現在の問題点と将来の方向性

将来を予想できるような質問

今現在の色々な状況とこれからの見通しについて?

訪問先の担当者方に今どんなことに苦労しているか?

どうして今の職場に勤めているか? 等々

3. インタビュー先一覧（一部）

1	日本テレビ放送網株式会社経営戦力局総合広報部	11	文京区区役所 社会福祉課
2	駐日大韓民国大使館	12	日本中国友好協会
3	お茶の水女子大学子ども発達教育センター	13	D A R K
4	アムネスティ インターナショナル 日本	14	新宿警察署
5	東京エイリアンズ	15	東京育成園
6	駐日韓国大使館 韓国文化院	16	聖イグナチオ教会
7	財団法人 アイメイト協会	17	日本点字図書館
8	J E N (Japan Emergency NGOs)	18	ユニセフハウス
9	日本国際ボランティアセンター		
10	アリア文京大塚		

展開X 本年度のまとめと来年度の課題

今年度の総合的な学習は、校内の学年担当だけでなく、お茶の水女子大学子供発達研究センターの酒井先生や、『総合的な学習の時間』の充実に係わる教師用参考教材の開発に関する委嘱事業お茶大グループ担当本校 宮本・井上 両教諭 のアドバイスを受けながら実施することができた。特に、数回にわたるブレインストーミングは、教師自身が生徒に何を伝えたいのか、明確にわかり、総合的な学習が有効に生徒に働いたと実感した。約半年間の活動の内容は、鎌倉校外学習から始まり、無人島ゲーム・ヤカオランの春「あるアフガン家族の肖像」・峰村里香さんの講演「カンボジアに於ける教育支援活動」・中間総括・総合的な学習中間発表・インタビュー活動・HP作成と多彩な内容であった。特に中間総括をすることで、それ以後の見通しを確認できたことは言うまでもない。来年度11月から本格的に始まる2年総合的な学習においては、これまでの積み重ねの上に新たな視点を加え行うことは言うまでもない。

また、お茶大子ども発達教育研究センター酒井教授は、本校の総合的な学習の実践を、『実践コミュニティ』の組織化と活性化により学習を成立させていると以下のように評価している。

「実践コミュニティとは「あるテーマに関する関心や問題、熱意などを共有し、その分野の知識や技能を持続的な相互作用を通じて深めていく人々の集団のこと。後略」

この集団は、生徒だけでなく、指導に当たる教員自身もこの実践コミュニティの形成により学習を成立させているのである。」

総合的な学習の有効性がといただされている今、もう一度原点に返り、総合的な学習に取り組む必要があるだろう。